

特別副院長就任のご挨拶

特別副院長 うらた あきひろ
浦田 明宏



この度、特別副院長を拝命いたしました、浦田明宏でございます。
2022年4月より、医学部事務部長として着任し当院の理念「地域医療と先進医療が調和する大学病院」をもとに事務部門を盛り上げるべく活動してまいりました。
事務部門というのは、“後ろに控える”といった点が多いところではありますが、“これは偏見です”と私はいつも思っております。
病院では協働（立場の異なる者同士が共通の問題解決を目的に、対等な関係で協力し合うこと）という言葉がしっくりくるのではないのでしょうか。
その協働という考えの中、事務部門も当然そこに参加すべきであり、あるいは前線へ出るべきだと、各大学を見てきて常に感じており、少々ジレンマを抱えることもありました。
そんな中、今回特別副院長の役を担うこととなり、もう悩んでいる場合ではなく、この名前に恥じぬよう、気を引き締め一層皆さんと力を合わせて理念に向かいたいと決意を新たにしております。
現在、事務部を中心とする広報タスクフォースにて当院の情報と地域医療、小児医療を中心に発信するフリーマガジンを作成しています。病院間連携を掲載するうえでは、取材にご協力いただくこともございます。地域の方とよりよい関係性を築くためご協力のほどよろしくお願いたします。
今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

8月15日～9月14日

対象者： **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
8/24(木) 18:00~20:00	第9回島根重症外傷カンファレンス	ゼブラ棟2階だんだん (Zoomによる同時配信あり)	医療	島根大学医学部 Acute Care Surgery講座医局
6/1(木)~ 8/31(木)	令和5年度 第1回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Vol.118
2023 08
島根大学
島根大学医学部
島根大学医学部
島根大学医学部

2023年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2023年
8月
Vol.118

NEWS



CONTENTS

表紙：環境保健医学講座 教授 名越 究

中表紙

・教授就任のご挨拶
・皮膚がん治療センター開設のご挨拶

裏表紙

・特別副院長就任のご挨拶
・研修会・講演会・セミナー開催情報



教授就任のご挨拶

循環器外科学 教授 やまざき かずひろ
山崎 和裕

7月1日付で循環器外科学教授を拝命いたしました山崎和裕と申します。

1993年(平成5年)に富山医科薬科大学を卒業し、京都大学医学部附属病院心臓血管外科に入局し、倉敷中央病院で5年半の研修、大学院で4年研究を積み、天理よろづ相談所病院で1年臨床をおこなった後、2005年6月から2006年11月までフランスのパリにあるラ・ピティエ・サルベトリエール病院で1年半臨床研修をおこないました。これら、国内外の大きな病院で数多くの症例を経験することができました。その後京都大学に復職いたしまして、約16年間に前教授の下で弁膜症を中心に心不全に関する外科治療を、また現教授の下では大血管手術に関して、それぞれトップレベルの技術と知識をみっちり勉強する機会を得られたことは、私の大きな財産となっています。



当院においては、まず歴代の教授の下、循環器外科学教室が積み重ねてきた豊富な経験と症例が礎としてある現治療チームの診療を継続し、今まで以上に安全で安心な治療が行えるよう細心の注意を払ってまいります。それに加え、私が得てきた経験や知識を伝え、更なる技術や成績の向上を目指します。患者さん、近隣の先生方におかれましては、引き続き安心してご受診、ご紹介いただきますようお願い申し上げます。

更に積極的な他施設研修や国内留学を行い、現在進歩著しい低侵襲手術の導入をはじめ最新の治療技術の導入を図ることで、島根県内の心臓血管外科領域の治療環境の安定と向上に寄与したいと考えています。

昨今の医療環境や働き方改革など、診療現場や外科学講座を取り巻く環境はますます厳しくなっておりますが、次の十年を見据えた診療ならびに教室運営を図っていきたく思っております。

ご指導ご鞭撻頂きますとともにお力添えいただけましたら幸いです。

問い合わせ先 循環器外科学 医局 TEL:0853-20-2225



皮膚がん治療センター開設のご挨拶

皮膚がん治療センター センター長 やまざき おさむ
山崎 修

2023年6月1日より皮膚がん治療センターが開設されました。皮膚がんは基底細胞癌、有棘細胞癌、メラノーマ、乳房外パジェット病、血管肉腫など多彩です。10万人あたり20人程度の頻度で稀少がんですが、近年急速に増加傾向にあります。治療はメラノーマをはじめ、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬のがん薬物療法の進歩が目覚ましく、がんゲノム医療も選択肢です。単なる外科的治療だけではなく、放射線療法や薬物療法による集学的治療を含めたマネジメントが必要になります。高齢者も多く、個々の症例に応じて、相談しながら治療を進めていきます。



皮膚科、形成外科、放射線治療科、腫瘍内科、麻酔科、病理診断科、緩和ケアセンター、がんゲノム医療センター、薬剤部、看護部門(がん看護外来やリンパ浮腫外来など)、がん相談支援センターを含めた組織横断的に多職種での連携を行い、より良い皮膚がん治療を提供していきます。さらに次世代の皮膚がん専門スタッフの育成に繋げていきます。

島根県の患者さんや医療従事者の皆さんが皮膚がんで困らないように、皮膚がん治療センターがスタートを切ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

問い合わせ先 皮膚科 外来 TEL:0853-20-2382



お知らせ

トリアージ検査センターの 今後について

COVID-19検査センター センター長 やの しょうぞう 矢野 彰三

トリアージ検査センターは2021年11月に開設され、入院前患者の陰性確認、自費検査および陰性証明書発行、県や医療機関からの委受託検査を実施して参りました。デルタ株、オミクロン株と変異しながら猛威を振るった新型コロナウイルス感染症ですが、5類感染症に移行し、ようやくコロナ前の日常が戻りつつあります。このような社会情勢を踏まえ、6月よりトリアージ検査センターでの業務を休止しました。1年半にわたり、皆さま方に多大なお力添えをいただきました。この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

現在も新型コロナウイルス感染症に罹患する方がおられます。コロナウイルスが消失してしまったわけではありませんので、感染動向に注意し、自己管理してください。体調が普段と違う場合は、無理せず休む、受診をする、あるいは検査キットで調べるなど、「もしかしてコロナ?」という意識を持ってほしいと思います。

今後の施設の利用については未定ですが、研修や教育など多目的での使用が見込まれています。この施設、実は「島根大学医学部附属病院多用途型トリアージスペース」という名称なのです。しばらく抗原定量検査のために使用することになると思いますが、リニューアルして装い新たにデビューする日をお待ちください。



トリアージ検査センター外観



ご報告

精神科リエゾンチームの病棟回診を再開しました

精神科神経科 診療科長 いなぎ まさとし 稲垣 正俊

『リエゾン(Liaison)』とは?

フランス語で『連携』を意味する言葉です。精神科リエゾンチームは、身体の病気に伴う様々な心理的・精神的な問題について対応し、色々な診療科、あるいは多職種との『連携』を図っています。

精神科リエゾンチームの活動

手術にあたっては、せん妄、不眠、不安などの心理的・精神的な問題を生じることがあります。そこで手術が決定してから、手術を終えて退院するまで(周術期)、チームが介入することがあります。

特にせん妄リスクが高いケースには、せん妄に関することが記載されたパンフレット(図)を用いながら患者さんやその御家族に説明を行っており、定期的に各病棟を回診しています。各病棟のスタッフからせん妄発症や転倒などの有害事象の有無について聴取し、速やかに対応できるよう連携を図っています。

新型コロナウイルス感染拡大のために、病棟回診をしばらく休止していましたが5類感染症への移行に伴い、再開しました。

せん妄とは?

体調が悪い時や、手術の後などにしばしばみられる「強い寝ぼけ状態」のことです。特に高齢の方や、もともと認知症がある方では、せん妄がおこりやすいと言われています。見当識障害(時間や場所の感覚がにぶくなる)、睡眠覚醒リズムの障害(昼夜逆転)、幻視(あるはずがないものが見える)、興奮などがみられることがあります。せん妄はいったん発症してしまうと、患者さんの本来の身体治療に支障をきたしてしまうため、精神科リエゾンチームの活動のひとつとして、パンフレットを活用したせん妄予防活動を実践しています。

問合せ先 精神医学講座 事務室 TEL: 0853-20-2262



【せん妄とは?】

「強い寝ぼけ」に近い状態のこと
誰でも入院中や手術後に起こることがあります

- 幻覚が見える
- 落ち着きがない
- 睡眠のリズムが崩れる
- 時間や場所がわからなくなる
- つじつまの合わない話をする
- 治療に必要なものを自分で抜いてしまう

これらは認知症の症状と重なる部分があります

【せん妄になりやすい人は?】

- 高齢の方
- 手術を受ける方
- せん妄になったことがある方
- お酒をたくさん飲む習慣がある方
- 脳梗塞や脳出血になったことがある方
- 認知症の方、もの忘れが目立ってきた方

【せん妄の治療とは?】

せん妄の予防と早期発見のため、色々な確認をします。状況によりお薬による治療を開始します。

- 年齢
- 日付や場所
- 睡眠の状況
- 幻覚があるか
- 話のつじつまが合っているか

せん妄予防のために
患者さんとご家族ができること

- 我慢は禁物です。便秘や痛みもせん妄の原因になります。
- いつもの生活環境に近づける準備も大切です。

- ・カレンダーや時計
- ・家族写真
- ・入れ歯
- ・ラジオなどの趣味道具
- ・補聴器、眼鏡

気になることや質問があれば病院スタッフへご相談ください。
島根大学医学部附属病院



ご報告

緩和ケア地域連携カンファレンスを開催しています

緩和ケアセンター センター長 **はしもと たつや**
橋本 龍也

緩和ケアセンターでは、「緩和ケアを希望される患者さんが、望まれた場所で療養できる環境づくり」を目的として毎月1回、緩和ケア地域連携カンファレンスを開催しており、今年度中に通算100回を迎えようとしています。このカンファレンスには、医療・保健・福祉・行政関係者のどなたでも参加できます。病院や在宅緩和ケアを提供する在宅診療所や開業医、訪問看護、訪問介護、薬剤師、リハビリスタッフ、施設など、さまざまな場所でのアドバンス・ケア・プランニングや苦痛のスクリーニングなど、緩和ケアに関連した取り組みについて、情報交換や課題についての意見交換を行っています。

開催方法は、新型コロナウイルスの蔓延を契機にハイブリッド方式としました。これにより、県内各地から参加していただきやすくなり、最近では毎回100名程度の参加があります。これまでは距離的に参加が難しかった地域の医療従事者の方々とも情報共有ができるようになってきました。また何よりも顔の見える関係づくりができることで、病院側と在宅医療の担い手側の意識のすり合わせがしやすくなり、地域連携が促進されることが期待できます。

カンファレンスの情報は当院ホームページのほか、出雲市、島根県のホームページで確認して頂くことができます。興味のあるテーマからでもお気軽にご参加ください。お待ちしております。



年内のカンファレンス予定

日時	テーマ	講師
8月22日(火) 18:00~19:00	第94回 仮)もしバナカード(オンライン)	れんげ在宅クリニック 花田医師
9月20日(火) 18:00~19:00	第95回 仮)緩和ケアのいろは	島根大学医学部附属病院 緩和ケアチーム
10月24日(火) 18:00~19:00	第96回 仮)高齢者がん患者の機能評価と意思決定支援	島根大学医学部附属病院 呼吸器内科 津端医師
12月4日(月) 18:00~19:30	第97回 仮)緩和ケアの地域連携	岩手医科大学附属病院 緩和ケアチーム
12月26日(火) 18:00~19:00	第98回 未定	津和野共存病院 飯島医師

問合せ先 緩和ケアセンター TEL: 0853-20-2441



ご報告



病理学講座病態病理学教室の基礎研究紹介

病理学講座病態病理学 講師 **おおはら ひろき**
大原 浩貴
教授 **にいの だいすけ**
新野 大介

病態病理学教室では、大原講師が中心となり高血圧やその代表的な合併症である脳卒中などの高血圧性臓器障害の遺伝的・病態生理学的発症メカニズムの解明を目指した基礎研究に取り組んでいます。その実験対象として伝統的に用いているのが、高血圧自然発症ラット (Spontaneously hypertensive rat; SHR)、およびその脳卒中高感受性亜型である脳卒中易発症SHR (Stroke-prone SHR; SHRSP) です。



脳卒中易発症高血圧自然発症ラット(SHRSP)

SHRとSHRSPは1960～1970年代に岡本耕造・家森幸男(本学名誉教授)両博士らによって日本で開発され、遺伝性的高血圧を背景に脳卒中や心肥大、腎硬化症を自然発症する本態性高血圧モデルとして、現在も世界的に広く用いられています。私たちは遺伝的連鎖解析をベースに、SHRSPの脳卒中感受性に関わる遺伝子座などを明らかにしてきました。しかしヒトと同様、高血圧のような多因子疾患の原因遺伝子を同定することは容易でなく、どの遺伝子のどのような機能的異常が高血圧や関連臓器障害の発症に関わるのかはまだ分かっていません。

現在は、これまでの遺伝学的アプローチにより得られた知見を踏まえながら、興味のある遺伝子をゲノム編集技術で破壊したノックアウトSHR/SHRSPを作製し、個々の遺伝子機能の高血圧性疾患への関与を解明することも試んでいます。SHRやSHRSPの病態解明が将来、ヒト医療に貢献することを期待して研究を行っています。

問合せ先 病理学講座病態病理学 事務室 TEL: 0853-20-2137





島大病院ニュース 2023年8月

ご報告

経営懇談会の様子

視察の様子(放射線治療棟新棟)



星総合病院 星北斗理事長
兵庫医科大学 太城力良理事長
鈴鹿医療科学大学 豊田長康学長



島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

会計課経営支援担当

2023年6月23日(金)に島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催しました。この会議は、当院の管理運営等に対して外部有識者からの意見を得ることを目的として、2007年度より開催しているものです。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見送りましたが、今回、2年ぶりに開催することができました。

本会議には外部有識者としてお招きした、星総合病院理事長 星北斗氏、兵庫医科大学理事長 太城力良氏、鈴鹿医療科学大学学長 豊田長康氏の3名と椎名浩昭病院長はじめとする当院執行部関係者13名が出席しました。当日は、高度脳卒中センター、総合診療医センター、放射線治療棟新棟の視察を行ったのちに懇談会を開催し、2020年度開催の懇談会における提言に対する取組のほか、附属病院経営指標、体制整備、医療人育成と医師確保および患者サービス・職員福利厚生等当院の取組について、幅広く活発な意見交換が行われ、多くの提言も頂戴し大変有意義なものとなりました。

今回頂いたご意見を今後の病院運営の参考とし、地域住民や医療関係者の方々に、より一層信頼される病院となるよう努めてまいります。

問合せ先 会計課経営支援担当 TEL: 0853-20-2007



2023年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2023年8月

ご報告

写真1



写真2



写真3



緊急時の初期対応について 伊波野コミュニティセンターで講演を行いました!

E-ICU 副看護師長 土江 佳香
E-ICU救急看護認定/災害看護専門看護師 もりやま えみこ 森山 詠美子
救命救急センター 医師 むらかみ こうたろう 村上 航太郎

斐川町の伊波野コミュニティセンターから当院看護部へご依頼を頂き、7月6日に「いざという時のために! 緊急時の初期対応について」というテーマのもと、熱中症をはじめとした緊急時の対応について救命救急センターの村上医師が講演会と実演を行いました(写真1)。

伊波野コミュニティセンター職員の方をはじめ、地区内の各種団体役員・委員の方など総勢37名の地域の方々にご参加をいただきました。

当日は、島根県内に今年度初の熱中症警戒アラートが発令され、梅雨の合間の非常に蒸し暑い日でした。そのような気候の中、今回の講演のテーマである熱中症等について、一般市民の方々にとって身近な緊急時の対応を私たちから直接お伝えすることが出来ました。皆さん、メモを取ったり頷いたり非常に熱心に内容を聞いてくださいました。

緊急時の心肺蘇生については村上医師の説明のもと、和気あいあいとした雰囲気の中で実演を実施しました。実演の中では参加者の方を指名し、実際に1分間の心臓マッサージを体験して頂きました(写真2・3)。「たった1分でも非常に長く感じ、疲れた。この経験が活かそう」とのご感想でした。

また森山看護師より、ゲートボール等のサークル活動でけがや骨折は生じやすい事例であり、骨折が疑われた場合、身近にあるものを使用するの応急処置についてお話をしました。

最後には質問も多く頂き、大変実りある講演会となりました。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2531



2023年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2023年8月

心不全カンファレンスについて

循環器内科 医師 **田邊 淳也**
 慢性心不全認定看護師 **大矢 菜穂子**

当院では毎週水曜日に、主に入院中の心不全患者さんを対象に多職種による心不全カンファレンスを開催しています(写真1)。昨年度までカンファレンスの運営をされてきた大内武医師に代わり、2023年度からは田邊淳也が引き継がせていただき、この4月で開催が320回を超えました。

心不全カンファレンスでは、心不全患者さんの情報共有・問題点の抽出・解決に向けての具体的な方針決定について(緩和やアドバンス・ケア・プランニングを含め)、医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種のメンバーよりそれぞれの専門的な立場から意見を出しあって検討しています(図1)。

現在、島根県でも心不全は大きな問題となっています。私たちは「心臓、からだ、社会」という枠組みで患者像を捉えられるよう患者情報共有シートを作成し、カンファレンスで活用しています(図2)。そのなかで、出来る限り「共通言語」を用いて話し合うことを心がけるとともに、それを基に心不全患者さんの地域での療養・生活支援に活用しやすい情報提供体制・連携体制を作りたいと考えています。

心不全患者さんの「LIFE」の視点を大切に、どのように支援していくことが出来るかを一緒に考えさせて下さい。

写真1 心不全カンファレンスの様子

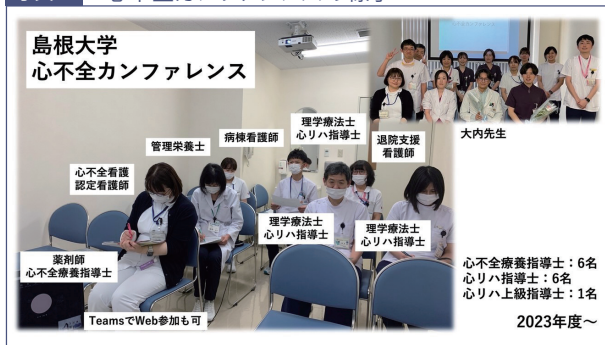
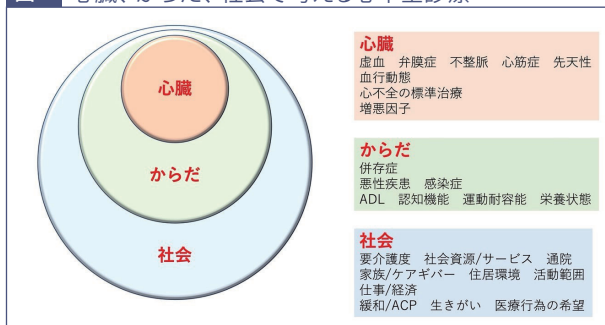


図1 心不全カンファレンスの流れ



図2 心臓、からだ、社会で考える心不全診療



問合せ先 循環器内科 医局 TEL : 0853-20-2249



2023年8月 発行
 編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
 問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
 TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
 ◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2023年8月

ベトナム風料理を提供しました!

栄養治療室 栄養士長 **平井 順子**

入院患者さんに日々の病院の食事を楽しんでいただくため、6月29日(木)にベトナム風の麺料理を夕食として提供いたしました。

当院の病院食を担当している日清医療食品(株)のベトナム人技能実習生のレ・ティ・チャンさんを、当院の栄養治療室及び日清医療食品(株)の調理師がサポートし、ベトナム風麺料理を完成させました。通常、ベトナムの麺料理は、米粉から作られる麺を使用しますが、食べやすさに加え日本人にとって馴染み深い食材であることから、米粉の麺の代わりにそうめんを使用しています。また、常食の方だけではなく軟菜食の方まで美味しくお召し上がりいただけるよう、麺たれの中に入っている野菜を柔らかく調理しました。

食を通して入院患者さんの良好な栄養状態を保ち、病院食が入院生活の潤いとなりますよう、今後もバラエティに富んだ病院食の提供に努めて参ります。



技能実習生のレ・ティ・チャンさん

レシピ Recipe ベトナム風麺料理 BUN THIT NUONG (ブン ティット ヌン) 風

作り方

- 調味料Aを混ぜ合わせ、豚肉を15分程度漬け込む。
 - 麺たれを作る：
 - 調味料Bをよく混ぜ合わせる。
 - 大根、人参は千切りにし、塩もみをしてしばらく置いた後、水で洗って水を切り、(1)の麺たれに入れる。
 - サラダを作る：きゅうり、レタス、クリームレタスは千切りにし、器に盛り付ける。
 - 1の豚肉を、油をひいたフライパンで焼く。
 - トッピング用のねぎをサラダ油で炒める。
 - そうめんは、たっぷりのお湯で茹で、冷水で洗ってよく水気を切る。
 - そうめんをお椀に盛り、炒めた豚肉とねぎを乗せ、ピーナッツをかける。
- ★そうめん麺たれをかけ、サラダも一緒に入れて、よく混ぜてお召し上がりください。

材料：2人分

- ◎ブン ティット ヌン風
 - そうめん 100g
 - 豚肉(細切れ肉) 100g
 - 油 適量
- 調味料A
 - オイスターソース 10g
 - 水 10ml
 - ベトナム醤油 5g
 - (※日本の醤油でも代用可)
 - 砂糖 5g
 - おろしにんにく 1g
- トッピング
 - ねぎ 4g
 - サラダ油 1g
 - ピーナッツ(和え物用) 6g
- ◎麺たれ
 - 調味料B
 - 水 80ml
 - 魚醤(ナンプラー) 26g
 - 砂糖 26g
 - レモン汁 26g
 - 大根 40g
 - 人参 30g
 - 塩 適量
- ◎サラダ
 - きゅうり 20g
 - レタス 60g
 - クリームレタス 30g

問合せ先 栄養治療室 TEL : 0853-20-2074



2023年8月 発行
 編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
 問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
 TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
 ◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





うさぎ保育所「七夕会」を行いました

総務課総務係

保育所では7月に入りすぐ、子ども達が保育士と作った笹飾りやお家の方と一緒に願い事を書いた短冊を笹に付けて、玄関ホールや廊下に飾りました。

7月7日(金)、待ちに待った七夕会が始まりました。最初に、笹飾りについて0・1・2歳児の担任から工夫したところを、3・4・5歳児は代表の子から頑張ったところを紹介してもらいました。0歳児は子どもの足型が、1歳児はなぐり描きした紙が、2歳児はちぎった色紙やお花紙を貼り付けたものが織姫と彦星の着物にしてありました。2歳児からは顔を描き入れ、3歳児はちぎった千代紙をトイレトペーパーの芯に貼って、4歳児は色紙を折って着物にし、絵の具で星を描いた台紙に貼りつけました。5歳児は台紙にキッチンペーパーを立体的に貼って色付けをした月と、障子紙でにじみ絵にした着物が作ってありました。

次に、ブラックライトシアターで七夕由来の話を観ました。部屋を暗くすると星がキラキラと光り輝き、子ども達は「ワー!」「キレイ!」と歓声を上げ、きれいなシアターにうっとり。話が終わると、“織姫さまと彦星さまが会えますように”の思いを込めて「たなばたさま」の歌を歌いました。

「夜、天気になるかな」「天の川が見えるかな～」と心配しながら外を見上げていた子ども達。余韻に浸りながら、七夕会が終わりました。子ども達の願い事も叶いますように…。



問合せ先 総務課総務係 TEL : 0853-20-2016

